

内容の解説と配慮事項

(1) 学校と生活

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

1 学校の施設の様子や人々のことが分かる

実際に施設を利用したり、そこにいる人とかかわったりして、施設の位置や特徴、役割、人の存在や働きなどに気付き、自分とのかかわりの中でその意味を見出すことができるということ。

2 楽しく安心して遊びや生活ができるようにする

- ・ 学校生活の児童の基盤
- ・ 児童にとっての居場所づくり



児童がめあてを新たにしながら、学校の施設や人々と繰り返しかかわることが大切

3 通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ

通学路をはじめとした自然、そこで出会う人々の暮らしや様子等に気付くこと。また、危険な箇所、安全を守っている施設や人々に気付くことで、安全な登下校ができるようにすること。

<安全を守っている施設や人々>

- ・ 子ども110番の家
- ・ スクールガードリーダー
- ・ 地域ボランティア（交通巡視員，スクールガード） など

【配慮事項】

- 学校の公共性に目を向けるよう配慮する。
 - ・ 学校の施設はみんなのものであること
 - ・ 学校にはみんなで気持ちよく生活するためのきまりやマナーがあること
- 学校生活のリズムを身に付けさせる。
- 自然災害，交通災害，人的災害の三つの災害に対する安全確保に配慮する。
- 幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図る。
 - ・ 入学当初の生活科を核とした合科的な単元構成
 - ・ 児童と幼児との交流の設定